

『ハイ御一人前が十二錢です』では、れすしの側にある生姜は『ホッホ、それは附きものですからただです』ジャー私は、生姜だけ頂きますべー』

▲昔々ある處に、大旱があつて何日経つても雨が降らない、草木五穀一切枯れて仕舞つて、今にも大饑饉が始まりさうであつたので、其處の王様が大變に御心配せられて、家來共に、誰か雨を降らす人があるまいかと尋ねられました。すると一人の家來が、『雨を降らすに妙を得る者は、龍の外にありません』と申し上げる、『さらば直様其者を召せ』とありて、早速龍を召し出して、雨を降らす事をれ命じになった。神變不思議の術を心得た龍は、何か呪をしました所が、不思議や今迄の晴天、見る／＼かき曇りて、忽ち沛然として

大雨となつて、打つて變つての寒さに 五体も戰慄へる許り、そこで、王様は『あーもう宜い、これで澤山だ、どーも大變な大雨になつたもんで寒くつて堪らない、どーか前術で、今一度温くなる様にしておくれなにか』龍温かくする事は、私の手では参りませぬ、それは私の件に御命し下さいまし』玉フーン お前の件といふのは』

驚はい コタツでございます』

考へもの

前號の石の中に隠れてるといったのは「火」です、兄弟と云ふのは、風の事です。

愛讀諸姉の一人から、次の考へものが出ましたやうてで覽なさい。

かんが
考へもの

三河 近藤とき子

妻の末弟が或日、叔母様の處へ要用があつて行き
ました、とうとう日がくれました。妻の弟は男
ながら、夜道が甚だ恐いから、(虫の名二つ出づ)
あてゝごらん。

謎々

- 一、人力車夫とかけて、
- 一、めくらの障子張とかけて、
- 一、めくらの芝居見物とかけて、



家庭



ないしよといふこと

ふみ子

人の親として其子のよかれかしと望まぬものが
何處にございませうか、處が實際はなか／＼そう
ばかりはまゐりませんで、自分の修養のたねた
め、また、不注意などのために、全く、知らず
／＼天真爛漫な子供を、わるい方に導いて居るこ
とがあります。

私はこういふ一人の女の兒を知つて居ります。